

学級活動（１）指導案

6年1組 28名 指導者 増山 聡

本実践は、以下の検証を行うものである。

- 意見を焦点化するため視点を与えることが、話し合いの論点がずれないようにするために、効果的であったか。
- 話し合いの過程に沿って整理した板書の構成が、合意形成を支援するものとして効果的であったか。

1 議題

6年生として、今の私たちにできること。1年生が「楽しい」と言えるような交流活動の計画を立てよう。

[学級活動]（1）一ウ

2 子どもの実態

(1) 子どもの学級生活における実態

- 最高学年になり、委員会活動に自分の役割を確実に果たし、時間いっぱい懸命に活動に取り組もうとする姿が見られる。また、1年生の給食当番の手伝いや縦割り掃除、集団登校においては、うまくいかなかったり、失敗を繰り返したりしながらも「自分たちがしなければ。」という思いを胸に留めながら、お互いに励まし合いながら生活を送っている。
- 小運動会のリレーの練習では、学年で試走を行うたびに最下位であった。しかし、学級全員が悔しさを露わにし、自主的にリレーの練習を開始した。その際、クラス替えがあつて間もない時期ではあつたが、お互いに声を掛け合い、特に運動の苦手な子どもに対して、得意な子どもが走り方のアドバイスを積極的に行う姿が見られた。
- 新学期始めて学級編成があつて間もないせいもあり、互いを牽制してが、授業中は自分の考えを発言する子どもが偏る傾向もある。その一方で、発問を工夫し、クイズ形式にすると、楽しい雰囲気得意的に挙手をし、答えを言うことができる。
- 自分に与えられた役割を最後まで責任をもって取り組もうとする意欲はある。しかし、自分の役割をきちんと理解していないため、当番の仕事を忘れてしまう子どもや、実行力の弱い子どもがいる。

(2) これまでの学級活動の取組

これまでに取り組んできた議題
<ul style="list-style-type: none">・ 最高な学級にするための「学級目標」を決めよう。・ 学級が充実するような「係活動」を決めよう。・ リレーに勝つための走順を決めよう。・ 「みんなで遊ぶ日」の遊びを決めよう。・ 学級目標の掲示のデザインを決めよう。

本学年では、「学年全員、心を一つに」を合い言葉に、学年訓「絆」を設定している。心を一つにするための意識を継続させるために、各学級における学級活動の話し合いを3学級とも「絆会」と命名した。

6年生になると、様々な教育活動において、縦割り集団ではリーダーの役となりメンバーをまとめたり、会の運営を任せられたりする機会が多い。話し合い活動での司会者グループを担当することが、前述のような活動にもつながると考え、本学級では、司会者グループを学級全員による輪番制で構成している。

司会者グループは、「絆会」を円滑に進めるために、学級活動が行われる事前に議題の提案理由、話し合いの柱を朝の会や帰りの会で友達に伝え、事前に自分の考えを学級会ノートに記入してくるよう依頼をしている。その友達が記入してきた学級会ノートを司会者グループは読んで、会の進め方について大まかな方向性をもって「絆会」に臨むようにしている。

「絆会」で決まったことを実践する段階においては、実践してみて気が付いたことや感じたことを日記に記している。よい気づきをしており、改善する意欲を示しているのだが、それを実際の行動に移せていないことが課題となっている。

(3) 話し合い活動における課題やめざす方向

本学級の子どもは、話し合い活動を通して「学級や学校をよりよくしていこう」という思いをもちながら、意見をまとめていかなければならないことをよく理解している。個人の意見や考えを押しついたり、言い争いになったりする姿は見られない。自分の考えや思いを話し合いの中で1回は発言したり、友達の

意見に対してうなずきながら話を聞いたりすることを心掛けて話し合い活動に臨んでいる。

その一方、課題もある。複数の考えから一つの考えに絞り込む場面では、お互いの考えのよさを見失い、自分の考えを主張しすぎることによって論点がずれてしまい、話し合いの柱から離れてしまうという課題がある。また、その間に友達の意見を聞いている子どもは、論点がずれていることを把握していながら静観し、司会者グループも話し合いの流れを修正することができないことが往々にしてある。更には、司会者グループが事前に話し合いの進め方について打ち合わせたことが、話し合いの段階において十分に生かされていないこともある。

学級活動を行うに当たっては、新しい環境ということもあり、お互いの意見を尊重し合う話し合いを行うことと、いかにして折り合いつけていくかということを中心に、学級活動のルール作りにも力を入れて指導を行ってきている。少しずつ本学級なりの学級活動のルールが身に付きつつあるので、よりよい学級集団を築き上げるきっかけにしていきたいと考える。

3 議題について

学期当初の子どもの日記には、「最高学年としての自覚と責任をもち、頑張りたい。」「みんなとたくさん思い出をつくり、最高の学級にしたい。」という内容の日記が大変多かった。担任と子どもの会話の中でも、「いろんなことに挑戦したい。」「学年でもみんなで何かしたい。」という話題が、4月は絶えることがなかった。

議題については、議題箱に入っていた議題提案カードから決定するが、新学年の初期段階ということもあり、子どもに「これから1年間どんなことをしたいか。」「どんなことについて話し合いたいか。」「どんなことを話し合う必要があるのか。」ということについて全員に議題提案カードに記入し、学級全員で読み合い、議題を決定することにした。

子どもの議題提案カードには、「みんなで遊ぶ日を決めたい。」「友達関係のことについて話し合いたい。」「10月のバザーの出店内容について話し合いたい。」「学校のために何かできることを話し合いたい。」など、学級組織を築き上げる基礎となるような議題やよりよい学級集団をめざす議題が多く記入されており、早急に解決をしなければならない議題案についての記入はなかった。

そして、それぞれお互いに記入した議題提案カードを見合い、思ったことや感じたことを、素直に発言するように促した。すると、「思い出をたくさん作りたい。」「6年生だからこそできることを何かしたい。」という発言が多く、6年生として学校全体のために考えて行動することも大切であるという思いから、全員の意見が一致し、「6年生になった私たちが、学校のために何かできることをしよう。」を議題として話し合うことが決定した。しかし、前述の議題はあまりにも漠然としていて、必然性がないなど、議題としては、あまりよくないという意見がでた。そこで、議題の見直しについては計画委員会の子どもが話し合いの方向性を定めながら本議題に決定することとなった。

4 指導に当たって

最高学年となった子どもの思いや希望からも分かるように、自分たちのよりよい学級づくりを通して、「学校全体も盛り上げたい。」という気持ちをもっている。その一方で「あれもしたい。これもしたい。」と現実を良く考えず、意欲だけが先走ってしまう子どもらしさも覗いている状況である。そこで、事前にどんなことが学校のために役立ち、盛り上がるのかということを先生方や他学級、他学年の子どもにインタビューをさせるようにする。その際、単発的な活動にならぬよう、「継続的に行うことができる活動」という条件を事前に伝えるようにする。

話し合いについては、**議題や提案理由の主旨をしっかりと意識しながら発言できるようにする。また、発言をする際には相手を納得させるような発言を意識させていきたい。**さらには、**考えを絞り込んでいく際には、司会者グループやフロアーの全員の論点がずれないように意識させることができるように、出された考えの「よさ」や、全員が話合っていることが一目で理解できるように板書させていく。**

実践段階では、6年生は中学校への架け橋となる学年であり、自発的、自治的な活動が現在よりも増加することを踏まえ、活動の計画から実践、反省までの一連の流れを全員が把握し、子どもだけで運営できるようにしていきたい。また、継続的活動を行うに当たっては、計画通りに進まなかったり、意欲が停滞したりすることから、自分たちの活動をきちんと振り返らせ、活動の足跡を残せるようにしていきたい。

5 第5学年及び第6学年の評価規準

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
計画	学級や学校の生活の充実と向上に関心をもったり、計画委員会の活動や話合いの準備などに見通しをもって自主的に取り組もうとしたりしている。	議題について自分の考えをもち、効率的な計画委員会の運営や話合いの活動計画について考え、準備している。	計画委員会の役割や話合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。
話合い	共感的な態度で積極的に話し合おうとしている。	活動計画に基づき、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。	
実践	決定しことについて、見通しをもって自主的に準備や計画に取り組もうとしている。	自他の役割やどのように創意工夫するかなどを考え、信頼し支え合いながら実践している。	決定したことについて、みんなで効率的に実践することの意義や方法について理解している。

6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法		
計画の段階	問題発見、選定	4/23	○ 議題提案カードの記入（全員）。	○ 学校生活に前向きな議題が立てられるように、これからの学校生活に対して希望を抱いている子どもの日記を紹介する。 ○ 計画委員会の選出は、前回の会までに一度も経験しておらず、希望者の中から選出する。 ○ 計画委員会が議題を立て直す際は、担任も打合せに参加し、適切なものになるように助言をする。	関学級・学校内の諸問題に気づき、学級目標を達成するために進んで議題を記入している。 （観察、議題提案カード）	
		4/24	○ 議題提案カードを見合い、全員で議題選定をする。			
		4/25	○ 計画委員会のメンバーを選出。			
		4/26	○ 第1回計画委員会・議題の見直し。			
		4/27	○ 第2回計画委員会・議題の決定、及びお知らせ。			
		5/2	○ 第3回計画委員会・提案理由と話合いの柱の設定 ・話合いカードの作成			○ 話合いに向けて、提案理由に沿った柱になっているか、また、今後どのように進めていくか計画を立てさせる。
	実施計画の作成	5/9	○ 学級全員に今後の活動の流れを伝える。	○ 今後の活動の流れを、各学級の計画委員会が全員に伝える。その際、何のために話合いを行うのかという目的を再度確認できるようにする。	知議題提案日や回収日等を話合い当日から逆算して考え、計画的・効率的な準備の仕方を理解している。 （観察）	
		取組の共同化	5/11	○ 議題についての自分の考えをまとめる。	○ 議題についての自分の考えを学級会ノートに記入させることで、自分の考えをきちんと整理させておく。	思様々な立場の人のことを考えた上での、自分の意見を書いている。 （学級会ノート）
			5/14	○ 話合いカードの回収	○ 学級からの意見を分類し、整理する。	思友達の意見を事前に集約、分類し、話合いの論点を明らかにし、意図的・計画的な話合いの準備を進めている。（観察）
	5/15		○ 第4回計画委員会・全員の意見の分類 ・話合いのシミュレーション	○ 計画委員会とシミュレーションを行い、話合いの論点、折り合いのつけどころを再確認しておくようにする。		
	（本時）	5/18	○ 活動の目標や目標達成の方法・手段・役割分担を話し合ったり、確認したりする。	○ 話合いを自主的に行わせる手立て ・話合いの技能活用 ・話合いの形態 ・発言の視点と教師のアドバイス	※ 本時を参照	

実践の段階	準備・実践	5/22 ○ 実行委員会の設立 ・活動の役割分担 ・スケジュール ・活動名決定 ・各係で打ち合わせ	○ 実行委員会の組織を立ち上げる。その際、話し合いの目標が十分に達成できるように、役割分担をきちんと決めさせ、これからの活動の見通しをもてるようにする。	思 友達の役割における創意工夫が分かり、友達を称賛している。 (観察) 思 自分たちの目標(提案理由)を意識しながら、友達と信頼し支え合いながら、活動に取り組んでいる。 (活動の様子)
		5/28 ○ 実際の活動 活動名「○○○」	○ 自分たちで決めたことは、最後までやり抜くことを事前に指導しておく。	関 一人一人の友達の頑張りを見付けようとし、積極的にアドバイスや称賛の声掛けを帰りの会などで行っている。(様子)
	評価	6/1 ○ 振り返り活動 ・振り返りカードの配布・記入 ・意見交換 ○ 活動の改善	○ 継続的な活動は、意識を持続させることが大切である。そのために、毎週金曜日に必ず振り返りをカードに記入させるようにする。 ○ 活動を進めていく際に子どもから新たなアイデアが生まれてくることもある。その際は、朝の会や帰りの会で簡単な話し合いをして、みんなが共通理解した上で活動できるようにする。	思 活動を振り返り、反省したことや学んだことを掲示するなど、今後の学級生活に生かそうとしている。 (振り返りカード) 知 友達同士で信頼し、支え合って活動したことで、学級の絆が更に深まったり、笑顔あふれ活気に満ちた学校になったりしていると感じている。(振り返りカード) 知 友達一人一人の役割や努力が分かり、皆で協力したら目標がよりよく達成されたと感じている。

7 本時の活動

(1) 目標

「学校のために役立つ」という視点を持ちながら具体的な取組について考え、論点からずれることなく話し合い、自治的に活動に取り組もうとする意欲をもつことができるようにする。

(2) 評価規準

○ 活動計画に基づき、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。 【集団の一員としての思考・判断・実践】

○ 共感的な態度で、積極的に話し合おうとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】

(3) 指導に当たって

事前に、各自の意見を学級会ノートに書かせておき、一人一人が意見をもった上で話し合いに臨むことができるようにする。その際、計画委員会の子どもに全員の学級会ノートをチェックさせ、話し合いの見通しをもたせるようにしておく。そして、話し合い前の先生の話では、全員により明確に今回の話し合いの論点を掴ませるため、議題や提案理由からキーワードを設定し、常に意識させながら話し合いができるように黒板にも掲示しておく。

話し合いでは、これから実践していく活動が継続的な活動になることをきちんと意識させた上で、話し合いができるように計画委員会からフロアに促すようにする。教師からは、論点がずれないようにするために、それぞれの柱に対しての条件を与えるようにする。話し合いの中で出された子どもたちの意見は、話し合いの状況把握ができるようにするために、短冊に書くようにし、学級全員が今何を考えればよいのかを理解できるようにする。その際、計画委員会の子どもが困った場合には、付箋紙でアドバイスを行うことで、円滑に話し合いが進むように支援する。

振り返り際には、自分たちで決定したことを最後までやり遂げることの大切さを伝えるとともに、みんなを思う気持ちや役に立ちたいという自発的な態度を称賛し、実践への意欲付けを図るようにしたい。

(4) 本時の展開

第6回 6年1組「絆会」 5月18日(金) 司会(森) 副司会(中塚) 書記(満吉・末吉)		
議題 6年生として、今の私たちにできること。1年生が「楽しい」と言えるような交流活動の計画を立てよう。		
提案理由 最高学年となり「学級の思い出をたくさん作りたい。」「学校のために役立つことをしたい。」と思いました。たくさんの先生方や同級生、下級生に対する調査の中から、「1年生とのふれあい」に関心を持ちました。1年生と様々な活動を行うことで、1年生は喜びや楽しさを感じ、私たちは6年生としての自覚と責任をこれまで以上に感じるができるのではないかと思います、議題を提案しました。		
話し合いのめあて 「友達の意見に反応しながらよく聞き、全員が理解し、納得ができるような話し合いにしよう。」		
話し合いの流れ	・予想される子どもの意識	○手立て □めざす子どもの姿
1 はじめの言葉 2 ゲーム 3 司会者グループ紹介 4 議題の確認と提案理由の説明 5 めあてと話し合いの柱の確認 6 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の話合いも自分の意見が言えるようにがんばるぞ。 ・みんなの意見をまとめられるか心配だけど、頑張るぞ。 ・提案理由は、相手が分かりやすい言葉を使って伝えるぞ。 ・みんなどんな意見を言うのかな。楽しみな。 ・賛成の意見に対しては、うなずきながら聞くことを心掛けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な板書準備はあらかじめ書いておくように計画委員会に準備させるようにしておく。 ○ 全体のめあてとともに、個人のめあてもノートに記入させることで、主体的に話し合い活動に参加できるようにする。 ○ よりよく話し合い活動を進めていくために、これまでの話し合いの良かった点とは改善すべき点を伝え、意欲を高めることができるようにする。また、柱についての条件を与えるようにする。
7 話し合い (1) 何をするのか。 (2) いつ、どのようにして行うのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の喜ぶ顔が見たいな。 ・1年生の先生が「1年生と一緒に遊んでくれると嬉しいな。」って言っていたよ。 ・歯磨きの仕方を教えに行ってもおもしろそうだね。 ・みんなの考えはどれもやってみると楽しそうだね。 ・とりあえず、1学期はどんなことをしようかな。 ・6月は歯を大切に作る月間だよ。一緒に歯磨きをしたらよさそうだね。 ・でも、どこで一緒に歯磨きをするの？1年生の教室？それとも6年生の教室？ ・だったら、交流給食をすればいいんじゃないのかな。 ・それはいいね。でも、これは先生に許可を取ってもらわないといけないね。 ・実践活動が楽しみになってきたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 議題や提案理由を基に意見が言えるようにしていくために、「意見を言う際、理由付けを行うこと」、「話し合いの柱が設定された理由」を、学級全員が再度確認できるようにする。 ○ 司会者が進行に苦勞している際は、アドバイスを付箋用紙に記して渡すようにする。 ○ 出された意見は、短冊に書き込ませるようにし、短冊を記録係に提示させることで、全員がその意見について考えることができるようにする。 関 自分と同じ考えに、あいづちをうっている。 思 司会もフロアーも、今何が話題となっているのか、何が問題になっているのかを必要に応じて確認しながら話し合いを進めている。 思 出てきた意見に対して、提案理由・活動のねらい、学級目標などの観点に照らし合わせて建設的な質問をし、多面的に意見を比べている。 ○ 話し合いの内容を振り返ることができるように学級会ノートに記録させる。
8 決まったことの確認 9 振り返り 10 先生の話 11 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは、友達の意見を参考に、新しい考えを出してくれたね。 ・今日は、友達の発表の時に、うなずきながら話を聞くことができたぞ。 ・決まったことは、みんなで協力してやりとげていきたいね。 ・先生が言っていた課題については、気を付けないといけないな。次の話し合いの時には、気を付けよう。 ・実行委員会に入りたいな。 ・ぼくは、あの役割がしたいな。活動が早く始まらないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 思 話し合いにおける自分のよさや課題を振り返っている。 ○ 子どもの自己・相互評価の状況を見て回り、付けたい力につながる発表を称賛し、認めていくようにする。 ○ 話し合いを通しての成果と課題を子どもたちに分かるようにポイント絞って話すようにする。 ○ 自分たちで考えた取組を自主的に活動できるように意欲付けを行う。